俳諧一葉集

巻

俳諧一葉集附合之部三

古学庵佛兮　編
幻窓　湖中
坎窩　久臧　校

元禄二己巳

蒟蒻にけふハ売かつ若菜哉　翁
吹ゆけるしまの雪花　嵐雪
物る鴨帰るぬ野もさハ立て　〃
七蠷山をもつて月　翁
町造り粟の進しる祢さしけ　〃
家ゝ乗く深くありつ事の血　雪

切ふもも志ゝ
土の餅つく神事おこなし
生簾手燃付ら[illegible]市し[illegible]
り菅さく跡つ松ゝきゝ[illegible]
去角乳塔[illegible]食を[illegible]
おゝゝ手角をよゝこう眼鏡
舌根千念佛を[illegible]屋士衣
小塚八稲の中にはり[illegible]
杖を歩生[illegible]ゝ祐上る[illegible]
睦行不伝や蛭牧の角
袁ゝ手塔[illegible]ゝ[illegible]
頃冷ゝ物の[illegible]き

翁
雲
翁
雲
翁
雲
翁
雲
翁
雲

多の憂ゝ米るの尺淀ゝ[illegible]
りりみのゝゝ桶の角を取
柴垣の古ゝ新八破ゝ
傳ゝよんゝ柱八ゝゝ
手ゝ[illegible]ゝ秋の風
製きる青れ月ゝのめく
長門ゝ西の蛭社松四
術千玉ゝ[illegible]ゝ
山茶ゝの塚右角柱
ゝ箭を[illegible]ゝ
やゝゝん大江の岸八海辺
削面ゝ以ゝ牧笑の墓

翁
雲
翁
雲
翁
雲
翁
雲

浮漾反もなき酒八盆の浮清　翁
笠瓢に杖も作も添つく　雪
花くもり飽まで神を拝みかね　翁
詣こゆしとゆる渡る春　雪
陽炎の香肩にたつ紙衣の角　翁
水ぬるむ中はしづんて言　曾良
松の名を秘法の沙汰へ物あつめて　嗒山
身をかぎり乏人に猿の緑すげ　此筋
院もねし同じ名すて頂きゆく　良
うるをかくれ物しまうの秋　翁

ウ
萩原八千種妙花さくも面白き　筋
納らぬさけ娘伴の秋晴　山
玉襷中も小袖の緒も孩けりて　翁
蕎しる嫁を翁うらやみて　良
忘れもてはふ人もかなし　山
旅もしくさみる秋のやさしき　筋
霜をそろへて炭情れまぬく　良
手よりまひとりの待ほどもなる　翁
物の音も夜をとう吹するる　嵐蘭
桐の葉しぐれ千うけの家　山
棚本あくる床八月と花　良
浪ハうすしの窓もそ勤す　蘭

[illegible] 烏賊鱠　菊良
[illegible] あちの[illegible]
塩水の[illegible]　山
[illegible]　菊
[illegible]　葉
[illegible]　山
[illegible]　良
[illegible]の小皿　小鯛
[illegible]　菊
[illegible]物　葉
[illegible]の百合[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の肉　[illegible]竹
[illegible]の[illegible]　山

[illegible]の酒盃の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊良
[illegible]人の[illegible]　葉
[illegible]の[illegible]　山
[illegible]の[illegible]　鯛
[illegible]　竹

[illegible]
[illegible]　翠桃
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　翠桃
[illegible]の[illegible]　曾良
[illegible]の[illegible]　菊

隣の子を手に居てのぼすらしく　桃
蕣の蔓縄の縫縄を作　良
ウ
まのゑハ小笠を負ひ押入る　菊
みられぬ姿は浮かしき余命　翅 輪
暮らす火を禁く伯の宿も冷し　良
めす人こえ二十六の里　桃
杉の梢が笈を並て身しらん　菊
知らずあつめて達摩はしまる　桃
座敷おとしき桃のしき小町の炭俵　輪
猪おそき花しらぬ魂　良
此の月も立ち出て出来たり花　桃
霧ともに消ん摘のいさよひそ　菊

蝶をかすめく花の紐ゆりし　良
御前の何の蝶の小草　桃
二
日傘さすに紙すてして表の庵　輪
衣を拾くこの織成の中　桃 里
酒飲ハ昔の朽木も仏し　菊
狩人帰る唄の松が　良
着武者の聖ゆかしぶ芋枕　桃
気でしとしとみる中しの寺　輪
日中北陸つく須子おしよう　里
一釜のするみ浅の茎長　良
乞食と八しゆて浮名の物語　輪
旧の地ら就る、流る三、ゆ　桃

等の葉八枝の秋の夜ぞ淋しん　菊里

名を隠さく法人染うる

ふる又新もをおむ石の上　菊

屋外しさいつこの水う舟　梅良

夏すちと咲れかくれる杜字

かりけりの人枝う九葉　梅

花の有能色をめう能色

物さくしいめ尖性をまし　桃雪　梨葉

一葉

ふるもとおむ石の上　菊

米ちおちけ跡のきう浪　二寸

旗のよ社西こうしてし蔵　貫良

松くの風好をも物千きく　翅輪

秋の一しけ秋を花と菊をく　秋鶴

除生ふれうまものつこすう　桃里

四月廿二日

風体の井わ松くの同植歌　菊

夏年子をを打て寄まけ子　等躬

水せ紀て屋有の石や寄けん　貫良

蔵子鉢の寄いうすう　菊

一葉一く月ふ等ふ川柳　躬

庭ふ屋松ふくく村う秋ふう　良

除の女ふ上縁ふ佛ふ葉を酌て　菊

女郎花のしをれやしほむ姿物　良
あり村ハ梅もいまの入めりむ　良
樣の小枝をうつ色を隔さ　菊
うゝみて八嫁ら畠の花を惜し　彩
雲深　山やゝ白髮おとりけ　良
風ゝ八軍を送る雁と来こ　菊
秋き走る分と物よゝし信　彩
文ゝ歌の聲つゝ彼ゝ庵の角　良
畠のおかの注ふきゝ見　菊
いろくしの移りをもゝ籠めて　彩
岩ーき貫をけふく糸越　良
山ゝ社尾ゝを手やむゝみゝん　菊

井堰ゝゝ清ゝつめゝゝ　彩
蒙ゝいくゝ雲ゝ一筋の清ゝて　良
村のゝ武士の角ゝ義ゝ為　菊
筆ゝゝゝ数ゝ合　彩
雪ゝ百姓ゝゝ名ゝつのし　良
多ゝ枝ゝ和ゝ射ゝ入て　菊
何中ゝ事ゝ　彩
住ゝ家ゝ角ゝ　良
すゝき希ゝ　菊
切樽枝ゝゝ　彩
古ゝ鶴ゝ　良
保ーゝ　菊

[illegible] 彩良

[illegible] 菊

酒のまれぬ人の正月なれ 彩

[illegible] 良

[illegible] 八寿の[illegible]を

菊

[illegible] 栗齋

[illegible] 等彩

[illegible] 良

[illegible] 等雲

秋[illegible] 次竿

[illegible] 素

[illegible] 菊

[illegible] 富

[illegible] 彩

[illegible] 良

[illegible] 雪

[illegible] 竿

[illegible] 素

[illegible] 彩

[illegible] 富

梅ちるさま紅葉のよりはかの山
かぜふく音をたづねてしかな　菊良
ふるさとにまちをとしてまちをの都
をゆるされぬ遠野をしらき　紫影
まと鶯鳴くもうすの美しく　竿
かくしてあの孫やすをとく　菊
うもねの音をくらくれぬ和の年　高
朴をうらる市は風酬　雪
けり信濃三社の祝をいくもて　良
社う合ましハ的ちのうる　紫
伽羅ある高野の鶴の鉢をとひ　影
四五日身をたくう海方の東　高

ものうのかひもなく思ひ枕　雪
雁の音　絶えまつまぬ宮　良
冠をも首すはのうるはたれ　菊
うつうつつくく文をうすて　影
忘れハ幸うるとくみくの人　紫
宮をもれをはの忍ぶ草の花　高
入ハ四門千法の花の山　良
ひをとるもの道生の垣　雪

お姿の秋なとうし　枝枕　風流
しのうの風の蓋　菊

菊花瓶子花をわりなくうつす
夢之のくさ　虹の如き
そらのうつり身と二ツ星陽ろう
ろ帝ろれさる物ものくさむ
樣けるる紅父ろうそをうそ侍へ
宇ろうろみくくおをさめる
梅のさうみきやさしき瓶子
すれをゆみさ面ひてろ
三枝ろる筆ろ古ての思ひれて
波のうきくゝ高の墓　京
をゝゝぬ松ハ秋の夕ろう
萩ろみをけるみのうの書

孤松　曾良
柳風　桃華
菊　除
良　如柳
木端　風
柳　菊

り蓋し身を燒の少紅ろう
瓶ゆゝろむと春そくし
武花のハ京ををのく
除ろきゆろ　尾赤は石
ものゝみと筆を換ろう書の水
ろてろむ走ろ　長むさうやき
初兵樓ろのハ筆ろ立そひさ
牡丹の書風　桃のろう
志侍のいてかろ　除ゆ
武士ろれ入ち　東西の門
秋のつろ花ろ竹くの京
羽織ろつむ華　物の角

松　良
端　除
菊　端
除　風
良　桃
端　菊
除

秋文を拾ふかんぞの会　松翁

うゑひすきをる茅渟の谷組　菊風

家敷を出を者ゑ久百者　端

出塚の紙を尺ゆるかを大　菊

きゑ併併の者ゑ踏手て　徐

よゑ能て宗宗紙宜の白張　風

ゆうくし石のうゑ戸の崩れゑ　松

ゑゑきゑ山を雨の清能し　端

宗のゑる也を方ゑ細桑て　良

きゑゑゑひ松塚ゑふ高

ゆゑ宗家高ゑて紙ゑし　菊

岩の故きを方ゑ茅の松を樊　清風

屋ゑを尾上の清を風ゑうけて　曾良

夕月ゑゑし二の花の伝　赤英

桶を桑人ゑうけ尺ゑ数笠のる　風

鈴の つ能来ゑいゑしのゑ　風流

ゑゑける石ゑ時ひし時雨踏　英

山八鳥能ゑく宗ゑ無を鈴ゑ　菊

ゑ門ゑる者を心後毎ゑ俤ゑを　徐

秋田酒田の浪ゑくゑうき　良

ゑ物ゑ寧の小太を時ゑれし　菊

素ゑゑ虫の雷ゑ　野ッ　風

良　英　風　菊　英　良　風　菊　英　良　風　菊

英　良　菊　風　良　英　風　菊　英　良　風　菊

起伏の麻手ゆゆしく小菊が　清風
物ゝ知るこゝろ夕ゝの蕎　菊
ひ翅いく度眼のみくらん　素英
石ゝ〻しこゝろの舟　實良
秀信ふ青花法らの新ゝ〻　菊
大ゝ香絶て八秋をゝゝみ蛍　風
ウ　ウ
弐畳ゝ色金きゝゝや拵つゝん　良
雷ゆめゝ八杉の拵ゝゝ　英
ゝゝゝ杉のゝ岩の中ゝ〻　風
秀のゝゝくき地を人屋し　菊
いゝ光ゝゝ美如ゝ〻ゝ雲ゝて　英

紅粉白粉の市のゝゝゝひ　良
秀白ゝ八秋のゝ拵のゝゝ　菊
ゆゝ雨ゝ霧ゝ象潟の有　風
蓮ゝゝゝ杉の中ゝきゝゝ　良
朱ゝ拵ゝ蒔ゝ雨ゝ千　英
貧信ゝゝゝゝ拵ゝ人ゝ　菊
秀すゝ秀ゝゝ　風
ゝゝ拵ゝ八笠ゝ　英
蒼ゝゝ入ゝ拵ゝ　良
岸の日ゝ拵ゝ拵ゝ　風
今ゝゝゝ拵ゝ蔵ゝ　菊
二の宮八八幡の几帳ゝ対のゝて　良

[illegible] 月の十五夜　英
[illegible] 秋の[illegible]千曲　菊
[illegible] の　樺の　木　風
つくづくと世さうに更ふて　英
父の旅宿を[illegible]　良
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　風
[illegible]上う石上　菊
[illegible]の[illegible]の[illegible]　良
[illegible]　英
[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　風
[illegible]　良

一葉亭無名

[illegible]の山寺　菊
[illegible]川　菊
[illegible]舟枕　一葉
[illegible]　曾良
[illegible]の[illegible]　川水
[illegible]　宗
[illegible]　菊
[illegible]　水
[illegible]　良
[illegible]　菊

芋とゆいしまする大きものは　栄良
葉の色とかたちとかたちとる　水
瓜紅つる　双六の　石　水
色物さまれよ　炊のそひ入を　栄
形ふ人子　生る　秋　うを　菊
多者る　野毛の　有て　ゝ　水
硯　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　良
花の　塔　を　織　す　差　り　栄
泥　桑　い　ゝ　む　山　ゝ　け　の　塔　水
稚　多　舟　を　深　長　の　か　の　書　宿　菊
刀　持　ま　る　甲　斐　の　一　紀　良
蓮　垣　人　を　通　ゝ　ぬ　軍　ゝ　し　水

物　の　く　ゝ　ひ　子　削　る　松　の　木　栄
星　あ　ゝ　ら　契　ハ　白　髮　と　か　ゝ　ま　ま　良
集　子　逝　女　の　ま　を　ま　む　月　菊
家　海　子　黄　ゝ　も　ま　ゝ　め　ゝ　ま　結　栄
栄　ゝ　ま　子　ゝ　ま　ゝ　ま　ま　ま　ま　ま　水
合　歌　吹　本　の　け　を　盃　の　か　け　ら　菊
ゝ　ゝ　ゝ　し　ゝ　ま　ゝ　す　方　ま　の　弧　良
古　以　の　友　ま　と　ま　ま　ゝ　ま　ま　水
ま　集　海　ま　ま　ま　ま　舟　の　系　合　栄
ま　ま　ま　れ　海　ま　の　色　の　市　の　ま　ま　良
煙　掃　の　ま　を　ま　ま　ま　を　ま　ま　の　家　菊
元　人　を　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　栄

やまと人　烏のまうふ入　右　水
ひらひらと望とそ　つゝ時の色　菊
山田の稔をいとゝ　面　良

羽黒山僧愛好の梨のお流寄を送る　菊

有ものゝ中をもとめてすれの方
仕事と人の話　文　外　義丸
門舟の孫子　家も　引　を　清良
鶴の孤　ひとり　足　ある　三方　白雪
流れ　天　をとゝ　る　枝の　れ　珠妙
かも　南　を　話　ちゝ　梨水
鳴　て　ハ　皆の　かけ　宝　絵　を　宝

百里は　枝を　木　の　生　追　菊
山　を　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　丸
谷　村　ま　ま　む　外　木　の　森　良
高　ゆ　み　の　絵　き　ひ　り　家　ゆ　て　宝
豆　ゝ　ゝ　ゆ　ハ　ゆ　と　絵　鬼　丸
古　浮　不　を　寄　ふ　ふ　枝　蔵　菊
高　て　之　枝　ゝ　ま　ゝ　の　嶽　水
月　尺　と　引　起　れ　て　脚　き　良
梨　ゆ　ふ　ま　ゝ　ま　ゝ　す　ま　の　菊
ま　ゝ　ゝ　や　の　か　ゝ　ゝ　い　花　折　て　丸
的　場　の　事　て　咲　る　広　ま　む　宝
き　を　孫　し　七　の　ゝ　の　力　石　菊

汲ていとく醸す井の水　丸
是戒のうるさきてをしかるべし　園入
敵の門を二取あるべし　良
かゝる清き君を此年の恋乱まし　丸
書を見ゆる事の山水の奇　菊
くもをハ梅の枯葉の上をくく　水
汲の手をくもの新る林き　丸
龍のうを捨たるを刺く　雪
藻屋をうる取まるの法　入
月山の風の風を骨を志む　良
強法の大弱を稿筆の影　水
ちまのひく梅を入仕しべき　丸

咲る花の蕊の色　雪
ぬる人を待とうふ妹を待て　菊
紅を尋ぬ　冨　の花　良
鶯のさうるる流を花の波　會覺
第五句くるる　水

郭公重行亭

郭公しやの山を初の初筋る　菊
好を知れ言る人を井戸　重行
絡織の雲いとの橋歩く　會良
閑保生れ　東の三日月　呂丸
秦を手を成るる梨の花　巧

[illegible] 小[illegible]と[illegible]け
山の[illegible]を清うして帆[illegible]船　菊九
[illegible]ふるさと里ハうとましくて　良
栗[illegible]をもの[illegible]の齋ゝ[illegible]絶て　菊
うのちう[illegible]紙[illegible]行る石の戸　り
[illegible]を母の紙[illegible]を極をすれ　良
[illegible]を[illegible]小田の苅[illegible]　九
山[illegible]川の[illegible]　り
[illegible]　菊
きぬしハ[illegible]　九
[illegible]の女[illegible]姫[illegible]物[illegible]　良
[illegible]入の[illegible]　り

もゝの廊ハ[illegible]焼ける　九
[illegible]記のまゝ一[illegible]　菊
京良の[illegible]　り
[illegible]れ[illegible]　良
[illegible]物て　菊
[illegible]ハ[illegible]　九
[illegible]を[illegible]　良
[illegible]を[illegible]　り
[illegible]小[illegible]　九
[illegible]　菊
[illegible]　り
[illegible]　良

泉なる陸奥の秋風　菊
初雁の須磨の浦なる船のためし　九
山ちかく住る宮の菅笠　良
尾花男子やさしうしろ　秋
泊きかふ山の紅葉　九
花の河ほとりやいつ咲ぬ　菊
数ならぬ身の山賤　良

酒田不玉寄納涼に上
ゆかりこしや此浦のけて久保く　菊
海松かる磯に漕る牧笛　不玉
月もよし関屋をかりん海松かる　曾良

民のかまどのけぶり　秋風　菊
さるをしたふ山の紅葉　相　玉
ゆかり絶の玉ぼこ　良
ゆ[ウ]ふ風の籬の毛　菊
火を焚うつる白髪　玉
海老ハ[ヒ]ちもとるやうせ法　良
松ぬくおくる武隈の去年　菊
芋掘ぬ[ヒ]きさ立ぬ[ヒ]ひて　玉
ちまきの粽千ゆかるひと　良
お供してゆくかるみ　菊
此寺の末もてみよ[ル]のそ入　玉
名作ふ蕎麦寺の滝の音　良

ふるさとのちとせの命　菊丸
紫の地に霜の月　良
ものいくハ本魂よひくまの風　菊
すくるさハ流るきゆる山姫　玉
流れ川踏つ戸ぬる垂仕ひ　良
枝を初き初る塚の蒸芝　玉
紅葉ハ手ふるを紫雲　菊
えひらう云と　良
ゆるゝめん所を侍と生豆　玉
月まく濤ゆ陣中の市　菊
海雲ハ吉蔔う裏ゝかくし入　良

小納稽をおくる戒の句　玉
秋うほの母子似ゝるゆうく　菊
貧子ゝ所ゝ無家ハゝれも　良
事氏の京持侍ゝ古今集　玉
花子射きる材の海苔　菊
黄ゝの巣を紅る相つの　良
蚕種しゝゆく筆ゝる　玉
錦本紙化て古文を天ん　菊
ゝるゝとゝ踏む交き　良

我好道に津ゝし
文自やらゝ考の花ゝ似て　菊

あをのをとこの桐の一葉　左衆
初夏の方に食ふくをうけて　曾良
海士の小舟をたをる夜　眠鷗
新月出るまで山を尺をうつ　此竹
松の木ずゑ低く猿の聲　布嚢
夕あらし庭掃て苔の落葉　石雪
蟬なくやおく路の石の上　桃華
ひとりぬる蚊を体のうしろ　桑
きぬぐしの焼て起るとしの夜　良
数しの根の子は拾つゝ　義年
後手をうつる秋のこゝろ　菊
ぬるゝとも初雪ハ庭のきくの　桑

秋川に来る光のみくさの　也
徳おもくしてゝ蚊屋　衣　鷗
ゆつさ二人の山本の花　桑
初の冷をまゝ星かゝふ　手
塩の羽をもむ蝿のうけ　也
まゝ雨を契剃髪　笑　菊
ものをいろしる人しのみ　良

星を宵の手弱手し止めをし　石雪
いろうつけ初荊の稲　曾良
瀑を踊て笠ふるく布橋く　菊

此ごろ十句あり

秋風おくる父の形見かな　菊重

刈の実を弥平てこ拾ひし　石

孤し後ろ姿古畦　更也

稀植て小枝まばらむの姿を作し　良

雨のゆうれいハ長く尾をひく　菊

尾をひく雲をはりき雲の上　重

一むら鳥人を乗せて飛　右

金山や秋を拾ひしむ　也

科の実ひろを高義の花　菊

夢ごとの百姿の魚の姿を絵く　良

人ゆえくうきき事の姿かな

松柏の枯し前れ雪しも　重

多を射さきるる枝の末　菊

吹り去の秋を明る秋の月　右

世昔の月山手の月　也

捨投むく老の秋れ秋寂く　菊

志ろ枯し家北流水生新涼　重

塔源の弧村の夕雲陸　也

清水のあうれ字清しき　右

かくふもし地蔵の孫を石のして　良

猫ふたふくふ里の子　重

似仙を云て赤の宴手入　菊

分ものを云ものく板の長生　良

寺院にて名ばかり少枯吹萩芝

菊

あるを人知て新うつす月　枝撓

弾ずるさびしき秋の数ゆゑ　小枝

よしの弾ずを聞ぬ人なれ　谷ト

寺ゆゑやこの頃ものうき深草　蒼生

ゆゑしにのうしろ一もと枯　志格

信あふき残手ゆかるる夫を拾ひ　夕市

雨手洲崎の岩をうしなふ　致益

うたふ松ゆゑ火を焚し　軌生

乞食起しさく物をもとは　貫良

蟋のゆゑてハ笠手義之ゆ　枝

義をもむ法ゆゑ変の

夕雨のすゑ玉敷手今ゆゑ

ゆをほ先つ敵ゆ

侍のそふくもつゆのちゆれ

そろ発翌ゆ赤の世とゆる

洞手さゆ月ゆし豊の光ゆて

投ゆる栗をしゆふ味ふ

新参と稲ゆ赤ゆかゆく浅

市　蒼

帯ゆうけて時ゆる遊

梯ゆ赤ゆを敷ゆ之

ゆゆむ法ゆ手浅ふ遠未

生

良

二

寺寅　検校梯手人立ゆ

菊

ト枝　蟋　軌　撓　市　蒼　生　良　梯　枝

かくちとうに性あるあさ
一樹手折れるあむ三りの月　市菊
秋の雲をくく系屑のいろ　嬋生
宵あうつ之八う秋の言葉く
美手よきとる出くくくくく　卜観
るれ子三のふおくれ桂やきに
手こうさしひ沸石の板歯　菊枝
既能ちもあ系えもし　なつ　良
交詩のさ八社仕方ゆうき　嬋
閑ゆし五の良八されるろ　嬋
あるさ八しのけとのきけむ　観
大うさハ打るる手けうけうく　菊

流ゆる町のさ聖　笹
風送る秋ゆて涼しやれ　菊
美家ともいふ女ともいふ　卜
古文字のもてもあるしき　市
あけの情手罰やはるむ　嬋
きちうもかさしく系を拝ひし　笹
美手美て手を　友　観
学の家も家ゆよ系ゆ　良
う家くしやをに江の山　枝

かの流て
跡美当手て江料理見瓜菊子　菊

みーこのさまうるはしき紙のうへに彩
自らもゆく秋の末つ方次く　一泉
すき写さひしき村雨生垣　左任
秋深浪の門をかこうして　椿の音　ノ松
小桶の清水　紙ふの音　竹意
七夕ようひとうしし　梗の恩　詩子
うさぎふーやう　所のうつ系　雲口
よみ習ふ高手をゆくゆくを　飛州
もーー清き八ヶ月　自　如柳
肌さふく浪ーーーーーー　北枝
松のうを木千　千あー　稲　曹良
ふーの水ハうの中と縁組し　流志
泉

きーめ歩ゆる　ふれさうひめ　菊
糸うーて霜写　糸の上　点石　枝
ゆーーる踏ーむ　む老山　の音　口
子の戸は花もう　花もうえ　浪生
畑　歩　ーーーいく書　良

七月廿六日観生亭ニて
ぬ紙ーゆく人ーー　や白の萩　菊
芝かーれて　ーーく　新生
月ーーー海ーー　ーーー　曹良
干ぬかーひーーを　ーーーし　北枝
於風手屋霜のうの　ーーーぬ　生

雪ふりくるまに一ぢやう飛　菊枝
ものとなりて河内の嶋北迄ふる
こゝろ　ものをしてなるる酒樽　良枝
むかし雨の古ふ猪もちよれとら　菊
そのはなるる物かりとれ　生
晩陰る物の赤ものを嶋中を　良
あるとすむる宝壺の船　枝
船のきぬ女のかしらをうつ　生
みぬるすれる系つる系　菊
よるうる木ふ明むす塔の系　枝
うのみふ上る塔のふ塔　良
ものふ伝八行の枝を只四本　菊

船のあるゆる船の海のあさうれ　生
物をすのうきをの唖めるむ　良
むうしを色ふ月の沖陵　枝
あうる花ふ茶梅里ふ　生
船を船を　菊
二　蝶の羽や赤ふ殺ふ蝶ん　枝
くしの上ふ枝ふさうつる　良
ひくき赤ふ木色ふ心角ふく　菊
目後しして　生
そのふとぬすん人の名ハ鶴ふ　良
きうふみくふ石の長橋　枝
砂社ハ樽の寒生のいくうえ　生

[illegible]の[illegible]く[illegible]く初空　菊
一[illegible]ひとむらくもむ枝折の[illegible]　枝
はるかなる嵐　荻の戸隙を　良
袋[illegible]ひも鞍[illegible]枝帳張て　菊
うみきる[illegible]我[illegible]八[illegible]酒の　生
入山[illegible]いと[illegible]こ[illegible]き[illegible]　良
[illegible]きし[illegible]　枝
[illegible]　[illegible]　生
甲八毎[illegible]井[illegible]から[illegible]　菊
遠剥の[illegible]とる[illegible]す　秋の[illegible]れ　枝
[illegible]　[illegible]　[illegible]　良
[illegible]き[illegible]　[illegible]　菊

翠[illegible]二人[illegible]ものこし　生
[illegible]こと[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
汗八[illegible]　[illegible]　[illegible]　枝
四九の門[illegible]不二の[illegible]　生
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
長生八[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]八[illegible]　[illegible]　[illegible]　枝
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　良
酒[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　生

[illegible]れむ人やれ曹の[illegible]のきくの花　菊

ちうら枯し霧の秋草　亨子
渡しを待る丘の月うけう　越蟬
ちはし行人おとなしき人を　菊
海青江多き雨は傘さしを　子
ひそうそうひしく大手の梅　蟬
きなやこなの多うし蝶の影　菊
青田ゆる海隈　そつ　子
秋光そ多を主ましとも　蟬
寄そつ多れて侍のふ戸巻く　菊
提灯を海女ひけるむすき　子
ゐる貴ふて　ゐる山もと　蟬
紫の戸小納豆しくは新し　菊

野家多のう竹梅きる　義　子
特義す人ハ二十するみしぬ魚　蟬
よをて舟のす月の川猪　菊
猪杉女芦ハもをうう　子
を手の軍の骨ハ白　暴　蟬
やふ入の蹄や送むの面　菊
義　みをしかの鞍ふ　子
うつくしき佛を海香鳴く　蟬
はくけるかちし雨巷の仕合　菊
巻うけて手の餅　揚いをうしき　子
巻ひくあら巻の古里　蟬
をくとはるあの秋の春　菊

今利を吟ずる陵の村
ひとりくに割しし笑の岩屋
家の平満ましし百姓
郡の内田まを赤まを田を持
付ぬ敵の法田ハしき秋
「長谷くしハ岩屋の新千歳
守の館に着かして家
十章二十章もの三千の神
秋業一篇をこらける里人
地の者にて長谷の長谷
地名の類類くしく作垣

嬬子
菊
嬬子
菊
嬬子
菊
嬬子
菊

山中の温泉

てうてて茎ゆひ湯くるの国
花咲てて山のすそめ
月ゆと角力を稽踏めて
翁くて つをやうとあ
書測と物の花
宗かてこうす峰一の垂花
ゆてを咲ひてうの山ハ者の寺
赤女四五人湯をてて
義書てこひ来ら答てて
数ハ別わ。鳥くハめし
筆の糸ててを中く花源お

北枝
賈
菊
枝良
菊
枝良
菊
枝良

元禄の貧を侍くるる門　菊
[illegible]北上侍かさく[illegible]　枝
雪やうやうとる[illegible]均[illegible]の竹　良
秋風[illegible]のいとゆふ[illegible]　菊
[illegible]き秋の[illegible]く蕣　枝
花の色小[illegible]の所[illegible]　良
[illegible]る[illegible]の笠　菊
[illegible]の[illegible]　枝
[illegible]の小[illegible]　良
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　良
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊

非[illegible]人[illegible]る人[illegible]　菊　枝
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊
[illegible]　枝
[illegible]　菊

跡狂人と除生きられぬく　挽華

九月八日小野の宮の
一条殿の大臣の萩の枝の
むしの袋を蔦縁の
紙にもむらのあるに
高くしたるを
枝木に枝木を結ぶ
合のまきぬるハおりしに
紙袋に人々の
次々のなかの世
恵のなかの海

題通

萩多
白之
浅夜
菊
曽良
夕
通
良

ほうきぬ赤しきぬめる業は入　本因
野のなかの雀の
月見はまきし　松の雲　宋
きぬの見拾ふ布ふくろ　菊
世獅絵を書きぬ　の名　さ　通
きぬの鹿用を張りん　因
鶴の恒松をあるやむおきうけ　萩
豆数ひくきくゆぬ里の花　之
なかの業もと行ひすす花　菊
きさ和貴湯く胃きて　夕
高しにひくる雪の岱星　良
蓬まなる松子米積かまく　萩

[illegible] 通
[illegible] 菊
[illegible] 歌
[illegible] 通
[illegible] 菊
[illegible] 入口 夕良
[illegible] 歌
[illegible] 夕
[illegible] 通
[illegible]

[illegible] 菊
[illegible] 夕
[illegible] 桃華

九月三日[illegible]の歌

[illegible] 不知
[illegible] 荊口
[illegible] 菊
[illegible] 如行
[illegible] 左柳
[illegible] 瓜
[illegible] 千
[illegible] 機香
[illegible] 斜巖

さまざまはやよきかりむものの姿　知風
いとをしおんへのみさくひさおさ　知
敷若の面をはらけ手法　菊
まりよひの蹴をやよそ思ひし　行
系さかめる身のさむしら　板
蓬莱して結きくそ苦かれ　菊
酒代の鮭く我市のむきほす　香
舟の形変千ようてかくそう　岩
上蓬くちも船のさの多紀　知
花の重欲宝の長橋ひそつて　行
形千えてをく咀の山まむ　風

そやく咲れそもをて宮の菊　菊
くくくくむくり青月の寄　左柳
形さけ古手の影の明むそ　絡通
そくさしと山のかさ多宝　文鳥
法欲の海子陳子的そる　越人
形柳しくもを文をくいま　如行
足のくり撰さ鉄をすめく　荊口
手をつ刃れてそきりそめ　世筋
二人めれ妻千ゆやあめむ　木因
けつく鮫子精進つすく　銭香
兎角さ矣すをけれむ　胃良

書物のうちの代魚さしの粉　斜嚴
絶えて一枝もらのこらぬ　板
集めけるまれハ貝も吹きて　菊
自然とく浪ゆゆしてうつし　与
ゆうつゝ智さ青の糸　おの
一株千万の山の花咲き　通
植ずうひこもむきの藤みて　人
茶菓の姿はうつくハいの人く　因
村さら行ゆきて知おハさし　嚴
咲きくり郷の名はゆ　筋
二代上手の響ハ多うう　兵
枯られ工さ浮とまりうき　良

志ら波と落くて　紗
名菓ものおゝくその大きを　板
菓の立ゆくも不乗内多体　与
美一く新生れつく物さま　人
庭千多くお青のきぬし　通
月新千異とゆとすの一丈て　菊
美とゝ物ゆ一株の義　に
物ゆ多を仕蓋く降ゆ　筋
追ゆと走さふ条立　良
九鉢千拵て中しを言ふ　兵
物のうけきう毎の言さ　因
花のかけ強金屋の叫ゆう　紗

梅山子を訪ふて夜話　巖

いさゝ紙をしきりにゆづり玉霰　翁

折節寒き夜ぞ楳の仙　良品

明筆の風やむ頃ぞ軸をきて　楮風

居まゝ撲くしむ月のさむしき　之道

膝の哀(?)薬のかくれ見の衣なる　去芳

きかし花たる時の団栗(?)　半残

ウ
離(?)阪の茶屋におちておれて　示

物くふくらの蝿のさびしき　翁

尚かゝる熨斗干てほす海士人(?)　藍

忙しう経よみけよ恵の手枕　風

冬野(?)にさゝの山しもに涼みて　鉄

ぎりぎりもとして天や寝起なる　芳

吾のある傍串妻はとりしれ　翁

月入うゝる不二のゆふくれ　風

秋風のすゞれみえくいさく　示

第(?)午よりける蕪の山寺　藍

一打八雲めぐる花の笠　芳

二
羽織抜くて春の朝雲(?)　翁

縦立て耕す肩をおやまぬ　風

首のさけて桜鉢(?)の朝(?)　鉄

袖こうするゝ口の句をかしけり(?)　翁

いかてとゆかしく奥州の産
若生まし史の辛数使こうれ　不蕊
林をうきてうすの戸　風
霜に冬を訓もハ安ふ流の雪　芳
風雅仕上し風のみの中を　菊
寺の中ハ探幽ひ通ひ旅云　不
よりて石ハ仏きうくれハ　球
瑠璃燈ハ月をとうてうこと　風
侍の身刺　金の文を経　蕊
をみをしめくるを踏ふて　菊
鬼ひうれと時ふ綱ふる　風
きれ来て怪ふの寺のよ寺の雫　不

白梅ふ
古義花の枝
ふのうふ
ふきまふ

芳
球
蕊

饒や　ふとまふ義の月　風
ふを仏ふ榴の花ふの
暦ふ人ふ里を安ふ流て　梅嶺
かふ牡丹の香を度ふ　半渡
牡ふふ宵ふの上ふ　玄芳
扇の角を仕ふ　良品
きふ経の緒ふ　風麦
菊

初かみ[illegible]特性り蓋　本白
[illegible]の鶴[illegible]桜も　歌
おこさ[illegible]もの[illegible]浅の[illegible]　酢力
伝説の海[illegible]れ赤旗を[illegible]　麦
かう[illegible]の[illegible]を[illegible]古い　風
村人八幡の[illegible]　芽
鶴江門徒を[illegible]　茶
造[illegible]　跡
身を[illegible]の海も甘[illegible]　力
姉[illegible]の[illegible]　風
[illegible]の生義　麦
[illegible]の芭蕉葉　菊
[illegible]の衣裳を[illegible]

[illegible]の鐘阪の重　芽
[illegible]の[illegible]　白
肩子村[illegible]仲のさ[illegible]　歌
[illegible]尺[illegible]里かれ　風
[illegible]の話を[illegible]　麦
幕紀子[illegible]の[illegible]　不
女[illegible]の戸の内　芽
[illegible]のいのこ[illegible]餅を[illegible]　菊
皆中八[illegible]くから[illegible]　白
[illegible]の中[illegible]の魚　歌
[illegible]ぼの魚　力
[illegible]　白

かうさ　もろしや　物の　袋　　秋風

七夕の　夢をかしらの　深ふくさ　　菊

なうして　世を　ぬきふる　月　　麦

柿の　木は　枝も　もぐこと　実を　拾て　　芭蕉

孫　てまさかしら　名や　紫の　　歌

陰　ひろの　陰　なるひろの　姿　　白

小斗の　星を　つ　ゑ　村　も　　秋

麦の　爪　ゆう　ゑ　ゑ　ゑ　つ　　風

松ハ　一　本　山　の　神　し　　菊

先　金　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　芭蕉

後　ゑ　し　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　力

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　麦

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　不

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　白

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　芭

月　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　風

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　菊

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　力

ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　百歳

菊の　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　弐之

一つの　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　　菊

戸とりて荊し田面そゝるけし　（菊生）
至の名をゆかしさやん草の月　（村鼓）
猿おし弥太寄の衣手　（槐市）
ぼろ屋のすゝれの手は大ころは　（梅顔）
奈良の小弥宜も商人なりし　（菊）
提灯を提きてしのひし陵の声　（生）
残る羽おをおしみほいさ　（ゝ）
浦しもやるゆく人へ物をさき　（萊）
古き名前の家をしくへかう　（顔）
るゆの筒をく彫て餅をかきき　（市）
志川とくりしらる青山の秋　（鼓）
ま帽の衣をと携てわきけり　（菊）

瓶子てさくさもちまきし素　（ゝ）
杖寄く上根ハ坊ふ花の坊　（顔）
息ほとしこのすゝは名人怠る　（萊）
ますの末て様すに小唄を薄をく　（鼓）
みすの屏風て遥く夜猫も　（顔）
徐ずて打かさしさらか団扇　（菊）
秋気のうつりまゝ風さしくまゝ　（生）
るしくしあつきのあけるてし　（ゝ）
むすこのる茄数えゐて酒く　（鼓）
紫うすの市はゝ帰て酒買て　（市）
明はの陸綾の月しろ脆う　（ゝ）
稲妻てゝ舟とゝ野ふまふしき　（鼓）

家手消くわ花ものゝ紋　案
子供ちら侍る弟を抱へて　翁
手木のひらりと一はす株札　之
ラ物衣の下知の意はさ纸けし　都
第をえわれハうれ笑をとる　翁
鏡みえうふも出の盾なれや　之
烟ありを極めて偏巻　市
初妻の耕锈やむしろ提て　案
跡手付る寸る枕一ふさ　枝

しらる風雲のみならい移ろし　玄角

虎落の小移ふゝくみしまゝ　舟竹
十あ庭を氏まる米の下しく　翁
こゝろゆて手寸旅ゐいとまみ　角
ゆふの月雲のもの八山の様　竹
ようれ岩翅手秋の衣おとく　翁
ウ一株の花八物手何しるうれ　角
人あるハ了了寄の猿論　竹
氏の名八志をむし跡をふしまけを　翁
右もひらりも嘘出てし　角
ふまむもる雲ようたのほとしきれ　竹
尾上ふのてる後のつまさぬ　翁
东まのおとき男もいさしき　角

門戸の角を待しのち　紅葉　休
秋風千木孫紅葉も吹志りし　菊
五十五　雪方の論　命
花さのうしさ賀の酒の赤きうしく　菊
ふりおくれしむ蛙ふる虫　休
二
玄のうち米　柄の傘の絵のうしろ　傘
屏風付しうしなりの紋　菊
白粉つゆ代をやの耳の蛾の色　休
孫よむ業を　もうすうすう　命
風くれて納屋の犬のちう付く　菊
灯を引ちう　梅の片ちう紅　休

自分を高の秋の色を　露沾
蛙のかうすを入う　春　菊
蓑笠和言久の高のなうしは　菊
木写を祝くうしうよの　雨　蓑良

たをれ菊ちらめうしうしうしてを
茅屋を弓作さ都志川の流さ
すの川といふ和千流うはとやてや
つのうしうう
雨さ経て蓑の赤紙尺うれ　桃雪

[illegible] 等躬
夕食を[illegible]の[illegible]月むて 菊
秋[illegible]と[illegible]布[illegible]し 貴良

[illegible]れ[illegible]ては[illegible]の
[illegible]を[illegible]ひ[illegible]かれ[illegible] 等躬
[illegible]の[illegible]ば[illegible]布 貴良
[illegible]ふ[illegible]ぶ[illegible] 菊

[illegible]め[illegible]
[illegible]れ[illegible]

加[illegible]早[illegible]て[illegible]食を[illegible] 貴良
いも[illegible]の[illegible]殺[illegible]ぬ[illegible]れ 菊
[illegible]引の[illegible]の青[illegible]を掛て 等躬

風流[illegible]
[illegible]の[illegible]く[illegible]宝[illegible]る柳[illegible] 菊
[illegible]の[illegible]橋の[illegible]を[illegible] 風流
風[illegible]の翁を[illegible]て 貴良

盛信[illegible]
風の[illegible]を[illegible]
小家の[illegible]を[illegible]ふ 白雨 栖風

物をうく 梯ハ是方ニ埋れて　木端

六月十五日青山西京分寺

除しきれ 海く入しるまみ川　菊

月をゆるすなる法の浮橋 松　令道

黒野の茅 田くる花の盛りて　不玉

物もとハ雨ふりもむ雲きれ　定連

波とちの影 秋 仕て市を待　曽良

新しまるまるる青の海火　任暁

不操蝕のこころ立 意 衣　扇風

ふまれよ切ふ蜻蛉山の重　會覚

杉の葉をうつ三日月　菊

秋 仕 朱のうを摂て　不玉

沙子 絶しる 子 月 沈　曽良

茶櫛ふきれ花を手枕　菊

義のすれを扱ふける月　棟雪

植ふれ秋のいふをて　更也

ちのめけし言葉のしい　曽良

義を一枝ふめて

雨ふ中の芋秋の蝸　小春

ゆふ月花の底さしきる　菊

紅葉山ある方れそけしくさ　蕭良
江ふちのうえ水のうき魚　小枝

物出て扇引きくるの秋うれ　菊
咲ふく寄手きほひむ　加枝

送る

秋のうれしの笠取れ　木因
菊うり寄せ一翁の菊よ秋ゆ　菊

ゆかくとうたつれるも秋の風　菊
吹橋の笑ひ　光清

元禄三庚午
二月

青うれ笠着うる桜うれ　菊
古井の堤　笠着　入春　左木
河内の清水　百葉
指さす方に春むつむし　村皷
桜ちる陳の桜ちるむし　式之
春を吹れ　風のゆうさる　梅額
俳句　一桐
世をちちといのちうる　槐市
俳句妹う　秋を上て見ろ　枝

[illegible]

菊
木
葉
桐
雪
々
葉
木
菊
市
桜

[illegible]

桐
桜
菊
市
桐
木
葉
々
桜
菊
木

けふもまたあら智恩院のくゐ　桐
幸て賀茂河の杖をつきけり春の空　ゝ
水干きる出座の姿　雲
木のまよし汁も鱠も梅の香に　菊
西はたふるまひ能て常ゑあり　珠碩
旅人のきゝしみこよひは春寒て　如水
うたもめしぬ太刀のひとくさ　菊
月やすらひて位の内裡の司か　碩
ウ 物紛つくる松のさやまさ　水
蘿蓑る三葉鶏す秋の末て　菊

なをきさしる路のそゞろ酒　碩
入逃す流沙の涌汲のみのこゝろ　水
中々も名所の言も出山依　菊
なふて残只一寸く岸しかり　碩
おそふ節より志阿のくつ　水
物名みえ兎年の之ことせんのみきさ　菊
有尺る朝の袖枕まかぬ春　碩
秋風の形を捧のし浪の音　水
寄向く寸や白子若松　菊
まつ館のむもひのさうくの一条田　碩
二 雁れ露めくさゝの隅花　水
何よりも蝶のうつりて花あかる　菊

文さはのとのちすさへ　水雲
うすものそてをいとはるるこそ
慰雲とくるおとに注ぐひとり　菊頂
手束弓紀の一筆ものかなく野　水雲
通て元しるてる皇ふらしむ
双六の目を取くやて夢うつ　菊
仮の枕ひてむすめ佛　水雲
中しに五万とれハ雲とかし
赤名ハ里れふるすのし　菊
みくやれてるく数ふ　頂
自殺しをぬ踊の斯を意
花すきはるるハ未だて　水雲　菊

只四方あるの雪　頂
一貫の孫ちのうとうしく　水
醫者の美それのとぬ分　菊
花咲ハ芳野ひるをけ　水
地をすきて春の山中　頂

本のもとに汁を飯さきるか　菊
はる来る人をくやしうる意　風麦
蝶蜂をおるるのふけうる　良石
ものおもひをうるひけ　去芳
夢枕うのうるものの意　霄洞

粽のかさりも前の程の実　翁
ウ石欄の縫目をたゝれし苔の露　麦
魚ようられしうる蜂の手作に　不
我宿の恵み忘れしやをおすゝむ　芬
木幡坂りの雲の夕かられ　翁
青尾をたゝむ人のうちひらで　洞
井戸のちる音あるいふきかし　不
涼しきの程さなかし月をまち　翁
むしろをたてにちりしきる　麦
扇しみかさをうつ秋の尾をすくで　芬
形うつたゝもる船母さの左刀　半残
やんちゃみ紅つけちりすかさく
日永ゐあつき二日酔さけ　三蘭
二鶯のうきうに揚をひかすむ花　翁
すけなくせ以の宮ぶさけ数　不
きのふ秋の蝙蝠蕨すみ櫓のまで　洞
ひよくのきぬをきりつゝうつ　菴
鰐の家を銅香さまく脇く余見　不
霧さし新しふ麦うるきく　麦
御佛はてのくるほとけ前しくて　芬
涼やそらみえさうつ　詳
ひちてもの鳥を家へ入るゝまかり　麦
萱子櫻のうちの火の幸読らう　翁
夕月を扇に結うく秋の風　菴

寄人恋　芳

[illegible]の[illegible]の[illegible]と名をつけて　陶

[illegible]ゆるんなれたる　巻

[illegible]の[illegible]を[illegible]　不

[illegible]の[illegible]　麦

[illegible]　芳

伊賀の山中にて　菊

[illegible]　幸徳

[illegible]　し

[illegible]　玉芳

[illegible]　良不

[illegible]の七ツ起る　陶

[illegible]を付[illegible]　菊

[illegible]の戸[illegible]　不

小[illegible]　芳

安[illegible]洲の[illegible]　菊

[illegible]の[illegible]　陶

[illegible]の男[illegible]　芳

人[illegible]三[illegible]　不

萱[illegible]　陶

秋之[illegible]　菊

[illegible]　不

芳

翁

秋

芳

不

秋

芳

翁

不

秋

芳

翁

秋

芳

不

秋

芳

翁

秋

芳

不

秋

芳

翁

秋

芳

不

秋

芳

翁

秋

芳

不

世を捨て深くさし籠の書　望　芳香
初月の新長繁を作りひて　尚白
石をいとなれ来りくくし　自咲
松の本を秋風さそふ　通雪
雁とやめし茅の家より　松洞
うつれる雲の如くなれてらを隠す　丈
矢数千機のよろこさ　菊
古塚と古いのみを拾うて　咲
林の業くく童かしまし　丈
きさらぬさむよりもてなる時　宣秀
くもきれ初の清きわくち　白
風ふくをうけて自二ツ　洞

枝を枝くく　黄笠の雪　江山
いとくくみし紅おれて　菊
よこ一ハれ月の消てふうて　咲
花をそそ芽吹ハ春の陽まれ　白
雨くく紀くる峰のさくい　丈
麦ゆ二ツ雲ゆく友を　重
されくくる雪弧のきく　山
雉火のくくくく松の根　丈
出くくさくふ舟のむく雨　宜江
そいのくくき歴重の笠　一龍
おくくれて廉のくき拾て　菊
中の秋時時を伐きく　重

三位ちうく義を踏をつ　兵白
うき人をわたしいそうの身の家
大寄寄て　教てみたるそれ女　考湘
一浦や二条ゆうの小網を　白
実のる告こそ　いそのの山風　江
こうしとあるやふをてふ帝　重
備を家ふて陶つ　鳴こう　兵
孫は伯父の新うへ　新　龍
教の妹うをを寄手来る　菊
探しも寄たるの魚を棒し
うふうるうるうの和を

市中ハ物の匂ひやの月　凡兆
笠しとと門しの雪　菊
二番茶も果ても稽こして　言乗
庭うちしくうるを一枚　船
世箒ハ花を尺ふ月角よ　菊
只古拍子ものもうまさ　来
雪もうる性こそのるの百蓋　船
義の蓋とうしいゆうけう　菊
そんの義ハのはもむ時　来
能雪の七尾の角ハ位しき　船
魚の骨ちうもの毛を尺さ　菊

待人入し小御門の殿
をうつす屏風に侍る女ども
源廣八幡の業をしへし
曲水の宴を吹奏する所
作る所くく
雅戎のさまを
手ゝ一斗の地をくるし
正六位朱つけ
し袋ふくらす
退出して和かなる力
丁稚ら
戸隠るまもり
ちからひの宴酒

末
紀
菊
末
紀
菊
末
紀
菊
末
紀
菊

てを丹もりいりうをつく
うゝしと笑雛を化る自然さし
巻をふひそ起し初秋
千ゝにらいい蛍る外岩し
ゆうみして蓮のはなぬ雀橋
学院ようゝくおゝい歩
いのちゝ仕一
さんゝ二品かゝる道を
うき世の栄ハ
何れゝ鶴すゝ
お前をもあれ
まのひゝ風定まる花の蕾

末
紀
菊
末
紀
菊
末
紀
菊

かすみこうめ屋のわふうき　末

原け桶の宗　やみうきしの　九兆
酒うまうして　青霞すると　秋　菊
新しこみ義　ぬるしこ月影　野水
ふるくしらもし　十のさらつき　雪葉　菊
五代経て物をさしふるして　秋
しらひしの　きるひ　きの弱　末
宗ゥもして　肱　ひかる　水
摩耶ら寺　根子やのかきる　秋
ゆめしかすこ　八風ふる

松のは雪をうけて雪味よく　菊
物思ひふふわまして体むする　水
むらひきはしき　ふるの文　末
重箱と人ふ　ゆるの海さ　菊
ひの風そ　あの　の月　秋
所用の秋を　ふけ　ぬくぬ　末
何を尺ふ　ふ　ぬ　秋
花とちる　ぬ　ぬ　水
木ぬの酢豆　ぬ　ぬ　菊
陶ふ中ふ　ふけ　ふ四十雀　秋
宗ます　家の　株をふ　水
名ぬの蕎ふ　ふ　ふ　末
　　ふ　ふ　ふ　秋

旅の馳走に有明しおく　翁
すさましき女の智恵もはかなくて　来
何おもひ草狼のなく　水
夕月夜岡の萱ねの御廟守る　翁
人も忘れしあかそふの水　紀
うそつきに自慢いはせて遊ぶらん　水
又も大事の鮓を取出す　来
堤より田の青やぎていさぎよき　紀
かもの社ハ能き社なり　翁
物うりの尻声高く名乗すて　来
雨のやどりの無常迅速　水
昼ねぶる青鷺の身のたふとさよ　翁

しよろ/\水に藺のそよぐらん　紀
糸桜腹一ぱいに咲にけり　来
春ハ三月曙のそら　水

秋立て干瓜からき雨間かな　及肩
資居ふみえて戸をさす月　珍碩
早稲積をするところ荒ハ風もれし　之道
人をしかるや辻の放下師　昌房
猪楠もきびしく見ゆる田庄松　正秀
虎落流ふとしこのてらの庵　探志
ウ斎提て舟のこけらを捨らん　游頂

ちやうね阪の姿もたえぬに
すゑなつふ粧炊ばよみ百景
非明憐る娘のゆき
うけさ筆合明の宿に止に
帆寄しと情愛はしめつ
月の出酒りせ何しきを唱餅
茶を蒔ふくと寺の庭人
上張し錦ぬすむ印のみ
な秘すむし雲の鈔収
としし機板ぬふむきく
二
花ひつれくる　まの入学
ちらひらむ柳川つるよ長あきよ

芭　訪　呆　芭　頃　呆　志　訪　肩　頃　芭　志

羽折摺の縞すみすし
行うして紛起習ふ五六な
篝をやすむらひもの味
毎歌の仕立て尺やる婚入都見
足すすしむる目歌山欲
江戸店を持て在所の門擁
麦を恋しさ烟のかまむし
殺引の百と置きをしく経て
香の小向千去年生むる
去れてとかくひの仕ら庵もる有
こころを去る秋のひよく
き
山畑の木綿をつく風のさき

肩　芭　呆　訪　頃　芭　志　肩　呆　肩　翁

石地の板を帰つるわ切　頃
情作の鼎の大工嘲しく　花
のくるびを弱す素良の僧上　肩
野の長を集しもを粗落け　秀
かくしとまる事のわけなの　頃

自尺すく雪手笑きれし　菊
庭の柳の紫うの動る絵　尚白
火鉢めう宣の手徳を多そ
お当うの吉お数打米　菊
尾張のとうう塩小鍋

有京之先しう川の上　白
字寞とかめう人ふふ等の巻
南のくまうう倉数商を如　菊
一切らふ絵て絵る南の等　白
そしうるる北飯はるむ　菊
いそうとはうの沖の沖　白
和ふとふう和てうれ縁つ　菊
月のおおそえてきしふ底の人　白
枯枝かうわ数すうれ出　菊
供豊数八素を秋う絵て　白
大工の板をいの氣迷宣　菊
三々の結ふ庭ふ花きうく　白

八さうよりまの吹流　菊
二月陶さうの物の屋うそ　白
打のらるまきすくむくき
商人い繰りさしる稲稗　菊
物よくちやるいるしの新　白
粉のあるよりつのもの意をさ　菊
美寿よりちるの常角の懸　白
塊の寿屋しるる玄一年春　菊
言言出きる角　白
言言教仁子葉の楽角の風さく　菊
隨分仁ちるお小の三ち角　白
言取の塩さの名仁一里生　菊

さきと帰るる　白
ありの言言の明の夕寿春　菊
小芝ちるし性そるる　白
うまるいやるるるの言き　い
まるる春　菊
寿乃けるる楽と入る杵の朱　菊、
打　五　塩　子　以　るしの妹　白

白梅めく枕のこいやまるしに　菊
八ちとすくに函寿の角　之道
乃戸塩の鶏かるふる秋の木る　珠碩

かり掛へしるかしこの宗　菊
河風ふく年の　代のうしとと　芝
麦の小ねをもくる夫　頃
齋きて一志き帰る識を芝　菊
願おろうや　忘年の　点　芝
と識の帯　美しく結と　頃
久しき弘の出るお面しき　菊
山ちよの沖の　ゆしるさ　芝
かふと言ふ　踊ふ紅　頃
月ふけて年の　夫をおいけて　菊
鉢も鮭も　諸まして　芝
物ふるも帯　つて　頃

又も保生の安倍　菊
財ふ家も咲ふ　新　扇　芝
屋家わう　て　頃

安しとおもふさよ月の雲　菊
舟を寄ふ　豆ふ　秀
ひかめおも咲も　御　秀
踊ふ行ふ　家の　路通
ふふとわかも　蕨の葉子　文草
ふふとわかも　蕨の　惟然
妹ふ　迎ふ　立ふ　このけ　格調
系ものふ　別ふ　孫のふふ　正則

石の手水の書付をよむ　楚江
影勢の森を見つけてきりのふ　勝重
ふるすがしらしらと時雨うち　葦香
拾ふ木の物ふる伝のかつぎ　兎苓
潮を見てゐる舎の大休　正秀
月新千万の墨の白の上　別
只ちらしてきりしすの切　重民
撥こそ忘はうの秋をあらしを　重古
餐の白髮をなる尺はうら　翁
手しのもるひしく友の数　苓
きしつ年をきのめ書めの白　別
三寸の栄の云ハ芦を史斎　雎

さくやくとのまろき春し　正幸
るけきつみきらハ戸を出し　江
ゆくのふるてゆ朱ふ　苓
けるを人ハるのを高ふ　良
せ先てをけも姫貧放き　然
風止をうるまれわ舟　秀
只一一おとるのむ陵　通
はしくハをぐ秋の巧紅弱　然葉
月尺をゆしやうし放立　苓
秋風千個の岩焼石の竈　雎
栗ひる藤の夕さひき　通
文敬ふるハ云ふ拵弱

多和田の大明神を尺よ　重成
長橋を引き過ぎて　柳沢
時雨降て紅葉の　秀
職人の石切りいそぐ　結玉
南部の山の紅葉　玉

去来

雪の明も殿ひ始しを行
一吹風は本紫を吹ちらす　翁
役引の新うめを川にして　九兆
稚を拝す藻さらの雪　史邦
まゐり戸に芋ひとり雪の月　翁

人手もとれぬ名物の梨　東
ちぶくる墨絵おのしく秋暮て　邦
さびしらしらはやすの長袋　秋
何ものか庭をめうらハ郭　東
里見えて年の見ふく　翁
かつらの雪手のうの茅の走り　秋
美蓉の花のさくとちる　秋
吸物を中の本されし長ち　翁
三里行まり出をうえける　東
吹まと屋同の男ちうし　秋
さ一本はさら有の紙歌　秋
若ふうの花手ふる年跡　翁

ひとうしをの後之　東
二時ゟ二ツの物も出きをゝ　紙
ものゝ家ゟ家ゟ高ゝ小屋　鈔
火ともしに出れハ此ゟ時の事　東
ゆくゝきいゝられ　菊
痩骨の中ゟ起ゟ事ゟ　鈔
陳を二ツて　なひゝゝ　紙
ゝゝ人を相撲場ゟ潜ゟきん　菊
そやゝゝれの力さしおす　東
ちすけ出て腰をかゝちゝ　紙
おまひ切ゝゝ死ゝゝひよ　鈔
ものゝ月の物ゝけ　東

物の戸や黄ゝ麦めゝれて家ゝ後　菊
市ゝ美ゝゝふ此のゝ　鈔
押合て家ゝハ又ゝ仮　紙
ゝゝらのゝれまゝ赤ゝ　菊
一かゝひ鍬仕ゝ屋の　東
紙紙の古屋ゝ本生ゝ之　紙
紙紙の秋の時良の砂　鈔

引起ゝ家のすゝ和の有　文華
物の黄葉をさゝす　賛　丹　文芳
罠ゝゝの種の葉を志ゝ　菊

[illegible]山のけうの時　春　史邦
富士見の旅の[illegible]の面　古来
[illegible]まおそくさく　[illegible]の[illegible]　野童
人の尺取[illegible]　[illegible]　芳
こようひも舟[illegible]ゆく[illegible]　芋
山[illegible]　[illegible]の[illegible]　秋
尾張をうつす本宮の大松　翁
彼[illegible]　[illegible]　童
[illegible]　[illegible]　末
[illegible]　[illegible]　芋
[illegible]の時[illegible]　芳
[illegible]　翁

出の[illegible]　秋
[illegible]　末
舟[illegible]　童
小の方[illegible]　芳
[illegible]　芋
酒入の[illegible]　秋
物の[illegible]　翁
[illegible]　童
[illegible]　末
[illegible]　芋
[illegible]　芳
[illegible]　翁

[illegible]中立の門　秋東
夕月をとゝ見る山の端に　重秀
名の佛はなれ名ハ佛ましし
垣[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]
小[illegible]のもりきの千[illegible]かゝれる　芋
傘[illegible]　[illegible]　[illegible]　秋
[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　重
[illegible]　[illegible]　[illegible]　東

きひまなる[illegible]　[illegible]　[illegible]　文草

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　去来
餘ひく[illegible]一[illegible]　[illegible]　菊
苗[illegible]　[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の入[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　東
[illegible]の[illegible]　芋
戸[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
里[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　芋
つ[illegible]　[illegible]　[illegible]　東
こ[illegible]　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]や　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　東

書は本實を紙に繼ぎ
踊場かりして長吏の二子
ふさけしられの袖を引さく
冊子は紫表紙
さつ本の樣のみなふ宣
今川の武藏を義ら洲絵
注しをする吏の不屈
張義を五百文の米の銭
其白の者ゝ
町端の掃
死をこらされる組父の
月まちの續れ豊の臨

内裏の帳に入し生の子
萩垣の川をさらひ茶の束
さらまのいふ秋を本ゝ
傘取やゝ注ゝ
掛行さらく切か紅
坂かゝの庶子に店の先
紀て音味ゝ取の扇
ひゝこれ分ゝ業
ゝ酒ゝ醫者の乗物
花咲て行端の嵐
地のふまし仲ゝ屋

洛吳服商京桝丸屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おさえつゝ雲を出つゝ
新なる雲を作りて
紫の里おおてゝ見しき
月とうるとうるとうると

月代や緑ふかき宣の宮　菊

萩さくけしきにひとしきり　宗房

桐桂や鞠のうつれる水　孫頂

秋色くれぬる門　之道

ふかき入仲哥を付し　菊

赤人もとを一しるの酒盃　孫頂

古道くまなきの抵　菊

元禄四辛未

月仲の比なるを宮のひとく年直

宣の宮の門ひとく年直

松の梢に時雨過て　幾香

梢通ふ時雨晴て　菊

紅葉の枝の月　此筋

紅葉の枝の月　子川

仁といふれて波の上　桃華

賀入て菊を見て　兵

見て古歌の　菊

張しき豪士伝し受ゆくむ　筋

形くれのしらしらと　通

此里千村伝へ　菊

餅屋をしく明月の夜
はつしくと梨子庵柳の家の方
一もとのくるる所は新城
おもひ入塩屋まとまる物もと
気しよう恨ハしらぬ事等
枝枯やすいふ人新もの形く
ゆきのあもとまくるまち
ばの上をとる事とくく
ひうんを入と雑ものし
けちうふ中に乗る仏るかし
いとあ物ひしのまとなる夜直
えぬのかつをてうるえいき

兵川筋通菊川通兵川筋菊川通

人のあるはけを浮うる楽もく
かるうたし義次秋の色しるを
池袋さうふ木芳の橋の笑
身の加寿うをさうつき指ぬよ
柳うう舟の底ゆう
京人のをれぬ詞ようつまを
ちうくく仏をとうへる仏
鈎之しうをはうくしぬし
堀の家を陣地を
ゆけのそ代の上を禁かよ
赤ふかうをを捨る事柳
花さけるを新う菊を那尺を

菊節通菊兵川筋通菊

うゑひす　おふ　ちつ　ちの　ゑ　　兼

梅の花の業やうこの方のよろづ　　菊

笠ゆ　ゆ　ゆ　

塩釜うらの入江の杉　嗒山
掃ふとて消る雪やかすみむ　踏通
石めぐりほとゝぎすの花を尋ぬる　菊
月うつる墓の苔を踏分て　山
はらうつる枝の帰る草枕　通
蛍のゆく跡をしたふ秋の風　菊
蓮深行け共蓮の花のけ　良
ゆらきれくゝ蓮の葉の露　山
玉の物かゝる蓮の露さよ　良
振ゆけく枝ゆてくれぬ花の雪　通
鶯の利喪を聞くひろ[illegible]ん　山
を他うの風の音ゝ[illegible]　良

月をうらやましひとゝ[illegible]ん郭公の市　菊
物云を聞の明ゆ[illegible]　通
ゆう程名をもし共ハ[illegible]田や　菊
蛍のゆく宵のゝ[illegible]に注ぐ　通
古家の地は[illegible]を物ぬ蛍　良
[illegible]書[illegible]を[illegible]ふ[illegible]の雪　山
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]る[illegible]水の[illegible]　良
[illegible]代[illegible]生[illegible]蓮の間　菊
[illegible]れ[illegible]家[illegible]　通
[illegible]書[illegible]ゝ[illegible]不破の[illegible]　良
[illegible]おとゝ[illegible]る田の中れ小田　山
かゝゝ[illegible]瘦[illegible]ゝ[illegible]ん　通

まう物はもいうき世一人　菊山
ひ之をいとんとまれハとまうそ
ゆ給て向ふ中の戸の御簾　菊良
物を目をさまして月をさすほの夕月夜
面のをうしき　苦の　象　通良
火を焚ハ岩の洞も氣うと
思をまて　敵に附　礼　菊良
おとろふる父の白髮を見うりて　通
折手のもしらる学の和　物　山
入さて物ふる芦蘆のもの和く　菊
行ふ中やまの中のしく　山

蛾ふ〳〵姉をや初秋の夕義ふ礼
蓑もうふ〳〵吹かしひしの波　菊
小牡をさい〳〵数義をかけ拾て　路通
鶏〳〵を来る　魚の　物　史邦
一面ふみをれるくもる野原　文草
巳をるし〳〵と宵中ふする　通
ウ
ゆ物いをれぬ人を思ひうる　菊
ま〳〵ひうもる　仏　童
物干のをうに拾て尾けを　秋
礼おく〳〵る　案の小　青　芋
夕写書拾第蓑〳〵て之物　通

野童

泥おかくしすまし女のさま能
ゑ備いつきをうけぬるうらう
牛の骨をし牛ゆゝしきや
海の底かくのけて破ゆゝ
堂の八角ゐるゐのいつて
みちはくハもうゐのさんし
唖の吉例すくちの黄き
餅子の友をほうきの角
糸小ちうふにきむ光結
物ハ絵をそこ草を赤むく
疹しとる弘の海さよ
竹見て拾ひ伝平の古家蔵

菊童歌通菊童歌通菊童歌通

ゆゝ伝くとあるう修ゆる
伝初ゑくまつる聲の鄭し
畑の中る寄ういふつき
屋れ弁ゝ無ゆひ入し多角取
松ゑく鑿の人し無家けき
やさしゑる手ゆゑを赤和
法蓋のゆ面る美ふきゝい
弁き家ゝし修て通ゑう
ゝゑくの中るおゑす天梅
法角を竹例そゑ主拔ひ
飯菰ゆく黄金の上
伝ますゑの黄を年ゑ

菊童歌通

業を法も数はしるを愚　執筆

佛祖うけ出清て歌をや詩出　椋志

月さしうつす意めて　正義

歌の出る事を業を尋ねもし　号方

を拭　筆のまゝ見わらのうらふる　蓬子

度数の学後を人の赤きまゝ　翁

又　点しうつす意の歌ひ　及肩

霧屋の頭　歌ひ　楚仁

ゝ川まとすゝの方のうらの弱　志

山作い伸賀の上歌の手ふして　義

狂言の社業を強うてうう　翁

出来合の物掛前神前　子

小う　飛ゝ川は頃の上　方

名身手かゝてうあひ衛う　義

野海の破の　仁

かゝうをあけまゝ　翁

毛のふゝうゝ　志

咲物のくれ事のおりて之　肩

かゝうゝ干さる　方

二帰る事物の一　義

り言ゝ　子

又ゝゝ　仁

菊

所

吟松

子

義

扇

仁

所

菊

路通

史邦

文草

玄来

野童

正秀

七十五

菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋
菊通秋

又さいのかの小蘭ゆいむす　学
まつ特物只うしまつ開しさ　東
酒のけきぬ尾ハ花をくく　童
くくひまの也うえ物と言みて　秀
物ハ見れしまけてそふく　執筆

くくハき稲の種蓋の彩多和　諸通
花をくくみ舟すゆ酒泡の水　昌房
きくく屋の中ゆくく祐うちを見て　菊
墻鶏の火をもくふ夕月　正秀
月のまれて紅杏の唐紫かち晨す　野径

すくくして乳をくくを物のる　乙州
鼎をくくやるくくくる嘶函　画好
角ハ雷くくくく朱し悔くく　孫頃
くくを一ゆまをくく秋とハきくくふ　盤子
重ほくくを入洞のくくも火　里東
回の中をいくのもの野のもの　擦志
芝居の札の火の米ゆの見くく　游力
沸嶽くくゆふ自由ゆ松の毛　秀
松宮をくくむる筆の綻い　通
月新ゆ二脚のし物をつゆ物て　函
萄麦の自ひのむきる下猿　東
鶏岑や沸多の花乳さくくし　丸

[illegible]る菊水の旗子
[illegible]の[illegible]ふる[illegible]ん秀
[illegible]上[illegible]て[illegible]結項
恨[illegible]る義[illegible]を[illegible]州
くもれと[illegible]の[illegible]通
[illegible]の[illegible]の[illegible]菊
[illegible]の[illegible]の[illegible]秀
[illegible]の[illegible]の[illegible]子
[illegible]の[illegible]の[illegible]州
[illegible]の[illegible]を[illegible]項
[illegible]の[illegible]を[illegible]菊
[illegible]の[illegible]を[illegible]毋

[illegible]の[illegible]伸る仲の[illegible]際徑
文八先[illegible]史文選[illegible]通
[illegible]採[illegible]やる[illegible]力
[illegible]嵐を[illegible]所
[illegible]を[illegible]子
内書[illegible]八[illegible]を[illegible]の船項
蓋のむ入[illegible]やり[illegible]徑

元祿四年の秋[illegible]菊を
[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]八[illegible]白[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]

斜巖
如行

一手の仕ての八麦を於さやうして　菊
かなや　秋　毎をさ〳〵　出やうし　荊口
手を重て　うち　射て　出るつゝ　的うち　文鳥
山　雁　霧　をさけて　小　枝を　此筋
秋風　を　踏うけ　後ま　長いろを　左柳
夏の　上を　なる　雞　て　ふむ　悠風
梅雨の　雲　破　ふ　る　時　雨の　縁　彩
念仏　の　あ　つ　の　鶏　し　ゆ　る　殘香
わ　ん　ん　と　は　め　ふ　も　小　袖　は　ふ　め　て　千川
おさ　み　ま　と　ち　の　忘　の　ゆ　し　る　ま　菊
れ　く　住　い　菊　の　れ　ま　し　八　戸　を　主　う　口
米　つ　ま　ま　し　て　物　の　ひ　う　ゆ　く　岸

義　おろす　る　八　雲　を　あ　そ　う　ひ　義
る　う　け　す　身　の　ま　え　て　む　る　う
那　も　の　宗　も　法　を　法　ま　を　菊
同　利　て　き　を　送　る　ま　う　う　物

そ　自　い　桃　う　さ　ろ　し　水　仙　菊
た　屋　う　う　那　の　美　ふ　う　す　屋　白雪
那　の　う　嵩　る　う　す　る　の　末　て　桃蹊
る　う　那　る　の　地　て　地　て　と　る　し　芦雁
せ　ん　く　く　の　い　る　を　夢　ふ　雪　の　角　支考
地　命　ま　う　う　き　う　く　ま　義　以之

ウ 窮和もとくひ集を作を押さ　扇車
作るくひやうの鼻あるてやる　淡水
ゐれ後のむ徒さえ徒らけら　桃先
蓑いうちめる作山千ちさ　桃後
夫涙子用さまうあるうを　桃雛
新の方もさまさまぬ秋　雪丸
花まきあ妨まのおるひ　雪
鄭砂れうるしやの月　菊
あのきしのおもれて陽を　水
菊をうるをふも旅を　考
義也子うまも化嫌のるる元　々
二月の鎧のるつけるれ　先

おまるるふ義の中のこけ窮　陽
小鯛も鯛とるる作物のる　後
黒峰の演ハ移れ峰走て　丸
白子ゐるの面の作の人し　解
蕊化側ゐ作ゐる貝を寝む　菊
松紫の埃れみえる鶴　蓋
終る蔵を蓋ゐ作る特の俳　
を埃るみるるとの流　
みしと生死程紫の蓋さ発て　
院も白蓼をるいのひる　
動ゐ子動ゐるるさ松の月　
代戸の祐ハこいるて拭さて　

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ウ新海を走行[illegible]
[illegible]ル門の外 頃 乃 之
[illegible]一対 面 光
[illegible]小 悠 重
[illegible]ら[illegible]を[illegible] 寺
枝を撓して[illegible]る[illegible]の 松 水

比里を山を回りやを[illegible] 支考
[illegible]して[illegible]く[illegible]寛 清水
いかをきれ[illegible]一種の[illegible]を 白雪
[illegible]て 恋[illegible]む 紅の[illegible]き 清 雪丸

[illegible]して[illegible]を[illegible]る如き月
[illegible]る 笑 社 門のり[illegible]
小[illegible]の[illegible]を[illegible]笑 光
[illegible]の[illegible]れ[illegible]下[illegible]の[illegible]
[illegible]る[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]を[illegible]の[illegible]丸世の[illegible]
[illegible]人[illegible]小[illegible]
[illegible]く[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]比[illegible]を[illegible]
[illegible]て[illegible]る[illegible]の三[illegible]月
[illegible]の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]き[illegible]

苔雁 桃隣
菊車
以之 桃先
桃後
[illegible]
考
[illegible]
丸
寺

花蕊て物を二盤にもえ上り
きゝもいくぬ火孔の白菊　桃雄
酒と塩こゝろのうらみ　水
腹子の味噌の出物　菊
多をまとまる筆を元を付る　之
四つの杯を廻す　重
海外に隣る人間の　坂
秋風清し義郎の笠　先
菊麦畑の菊　鯉
小つゝのあくきゝ石しの月　丸
きりしの意八方見るゝ見
乞食とゝてゝ夫婦かゝふ　菊

さゝもける宵中の雲を歩ひ　春
きれゝる法を和　之
素湯ゝつおする尺うて味ゝ　寺
荷を担ひるの歩を霜精　坂
発ゝとり向の方れ出う　重
橋の雲ゝ　ひゝる石鉢　水
念仏ゝすめ迄ゝ塔の友　先
きゝいく度の保をめて後　晴

菊の作発を出ゝ歩武千起き
まゝを越田ゝ
多仙やきゝゝ降るのゝ　菊

炭の火をすくふ手のもとをかし
青の月舟を漕ぐ引ゆけば
又ゝゝしとこゝろきの傳
初花結ぶまもなきおもひ
新綿剪るくれなゐひろう
旅の宿いとゞ寒さの雨そそれて
まゝゝ一ふしの鐘のふる寺
物ゝゝ取ゝおしつ月を笑し
ゝゝれぬゝゝ夏秋
蓑笠をあつる夜寒き三笠山
月夜ゝゝ次くぬゝゝ

歌人
文考
湘水
弁三
桃林
馬嘶
野幽
利雨
越人
桐葉
桃雪

元禄三年三月廿日伊賀上野風瀑
亭ゝゝ

本の口すけも餞をさゝれ
聖書ある人ゝゝやしゝの実
蓮地を拾ふ人ゝゝ
ものの白ひを炊ぎ
芋粥ゝのゝ
粥の涙すゝ
石壇の繕ひ
魚ゝゝゝれゝ
松茸の
ゝ月田ゝ

菊
風瀑
良品
古芳
半幾
菊
瀑
品
芳
砂

菊
瀑
芳
砂
瀑
菊
芳
砂
瀑
菊
芳
砂
瀑
菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]ハ　澤
石菖　[illegible]　[illegible]　孤
[illegible]ハ[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

湖水より出そめし月は民の空　菊
流れてはいとゝる人　文草
あふよりも人と友うらるゝ紅葉　許古
れく屋もまるゝ朱の楯うち　霞川
山まゝ出そめしゝみの出　菊
ゝる流やはて雲もみち　菊
一筋志けるる張笠の雲　李由

木のゝしに成もとゝ雪ゝん一雲殿　規外
四方の山の紅葉　月　菊
物陸もあるゝ秋ゝ業出ル　菊
もの八さゝ一き茅ゝ一もと　如行

帝国図書館蔵